

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和 2年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligvosyoCd=2393000415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のしたい事を取り入れている。散歩・塗り絵・部屋で休む等、職員主導にならないよう気お付けている。入居者様に満足度調査を行い、結果を家族様にも書面にて送り、施設では会議にて入居者様に「安心な生活」を送って頂けるよう話し合いを行い、改善している。認知症の進行の悪化を防ぐように 体を動かし出来ることはご自身でしていただき過剰介護にならないよう職員同士話し合い、研修の場を定期的に行っている。また、感染症の影響で家族、外部との接触を減らしたため。不安にならないよう 電話やWB面会を実施。職員も外部研修の機会が中止となる事が多い為 法人全体にてWB研修を取り入れ個々でのスキルアップ又技能向上を目指していく。地域との関わりの一歩として地域の交流館に事業者案内を置かせてもらっている。施設内の様子がわかるよう写真等を掲載している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは特別養護老人ホームやショートステイホームなどを併設した複合施設の中にあり、グループホーム本来の自立した共同生活を支援している。利用者の思いや、やりたい事を重視し、過度な支援はせずに利用者本位の暮らしを追求している。
管理者は、職員が悩みを抱えぬよう、課題は一緒に解決していきたいと考えており、会議や研修も全職員が参加できるよう複数回行っている。職員からは「いつでも意見が言える」、「助け合っで動いている」との声が聞かれ、管理者を先頭にチームワークの良いワンチームが形成されている。家族もホームの良き理解者であり、利用者を支える一員として協力している。重度化しても併設の特養へ移行する利用者が大半を占め、同じ敷地内で過ごせることは家族の安心にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに理念を掲げている。また毎日の朝礼では職員皆で運営理念を唱和している。また運営理念に基づいた、接遇目標を毎年考え、そちらもユニットに掲げ、一年を通して運営理念を叶えられるよう努力している。	法人理念に基づき、職員間で話し合っグループホーム独自の理念を策定している。更に接遇目標や個人目標に展開し、常に理念を意識したケアが行えるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流館祭に参加させていただいている。また入居者様と作った雑巾を寄付させていただきなどのかたちで交流をとっている。	認知症カフェや交流館祭など、地域行事には積極的に参加し、利用者の縫った雑巾を学校に寄付して交流を図っている。SNSを活用してホームの情報を発信し、地域に認知してもらえるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流館でGHのチラシを掲載したり、施設前に看板をつくりチラシを掲載するなど、出来る範囲で地域に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様や施設の状況をお伝えしている。意見をいただいた場合は施設に反映できるよう努めている。	運営推進会議には利用者、家族、行政、区長や民生委員、医療関係者、駐在所職員など、多様な人材が多数参加している。ホームの取組みを報告し、抱える課題について意見交換して効果的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困りごとがある都度、管理者が行っている。	法人が運営する地域包括支援センター主催の認知症カフェの運営に協力し、いつでも相談できる良好な関係を築いている。市が開催する研修や会合にも積極的に参加し、意見交換して情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、研修を行っている。また身体拘束へつながらない適切なケアが行えているよう、職員全員が周知できるよう会議や委員会で話し合いの場を設けている。	以前は管理者が行っていた権利擁護に関する研修を、職員が交代で行うこととし、職員が「我が事」と捉えて意識向上に繋がるよう取り組んでいる。「疑問に思ったら自分で調べる」取り組みと併せて、職員の理解は深まっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が講習を受け、職員へ周知し、防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が講習を受け、職員へ周知している。今年度も家族様の依頼により管理者説明行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様が理解・納得していただけよう、管理者が行っている。利用後に契約内容の理解不十分により苦情があった場合は、改めて説明させていただき、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱の設置している。また利用者様やご家族様から意見・要望があれば運営に反映できるよう努めている。	年2回開催される家族会やホーム行事には多数の家族が参加し、日常の来訪時にも利用者の様子を伝え、意見や要望を得る良好な関係を築いてきた。面会が困難な現状下、電話連絡を頻回に行って補っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションをしっかりと、なんでも相談できる関係性を築けるように努めている。また月例会議にて意見や要望を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	職員はユニットを固定せずに両ユニットを担当し、常に意見交換や調整ができる環境である。毎月数回の全体会議を行い、全員が参加できるよう工夫している。管理者は随時職員の思いを聞き取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二度、面談を通じて行っている。その他、管理者から代表者へ運営状況を定期的に報告のうえ、よりよい職場環境へ向け、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月例研修の他Web研修を行い、常に向上心を持てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊田市GH文化界に参加し、同業者との交流の機会を設けている。夏祭りなどの大きな行事の場合は法人内の施設で助け合いながら、自施設に良い点・反省点を反映できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者等が生活されている場を訪問し、要望をお聞きしている。入居以降も申し出等あればお聞きのうち、安心を確保できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後以降も含めて、ご家族様が安心して相談頂けるような関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で利用者様、ご家族様からの要望を受け、必要とされているサービスを見極めて支援内容に組み込んでいけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にグループホームが入居者の方にとって「生活の場」であることを念頭に入れ、利用者様と日々関わりを持つ中で一緒に生活を共にする顔なじみの関係性を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のそれぞれの状況を理解したうえで、利用者様の思いとご家族様とがお互いに良好な関係性を築けていけるよう努めている。離れて過ごされていても一緒に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との馴染みの機会が途切れないよう、面会等の要望には実現できるよう努めている。	友人の訪問や家族との一時帰宅、手紙のやり取り等、馴染みの関係が継続している。尺八や大正琴、裁縫、化粧と、趣味や習慣の継続も支援している。職場体験で訪れた中学生が、今でもホームを訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関わりが維持できるよう、日頃の生活において職員が、間に入りながらコミュニケーションを取りながら、支援に努めている。利用者様同士が不快な気持ちにならないよう見守りしながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了以降も、必要に応じて相談・支援ができるよう、利用者様・ご家族様との関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が常にメモを持ち、利用者様の思いを書き留めることで、少しずつひとりひとりの思いを実現できる努力をしている。また言葉で表現することが困難な方からは表情から読み取るよう努力している。	利用者の思いを把握するため、発した言葉を聞き逃さぬよう職員はメモを常時携帯している。聞き取った意向は職員間で共有し、実現できるように取り組んでいる。利用者の希望で、中庭に菜園が完成した。	利用者の言葉を書き留める取組みを始めたが、それを介護計画に反映させていく取組みは不十分である。今後に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの内容を職員で共有している。入居後以降も日頃の会話のなかで生活歴をお聞きし、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から利用者様おひとりおひとりと関わる中で徐々に変化する現状を汲み取り、月例会議の他、休憩時間などで職員同士で情報を共有することでケアの統一に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	直接ご家族様等と話し合う機会を設けることが難しい場合は、聞き取り等は電話で行っている。その中で得た意見アイデアを反映できる介護計画の作成に努めている。	利用者や家族の意向を聞き取り、6ヶ月毎と利用者の状態の変化時に介護計画を見直している。職員が行うモニタリングを基に職員間で話し合い、検討した結果を介護計画に反映させている。	「利用者の意向」と、「ニーズ」や「援助内容」にズレが生じている。利用者の根底にある思いを重視し、それを叶える介護計画の作成を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の方へ、利用者様それぞれの気づき等を記入し、全体で情報を共有しながら対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一するケアがある一方で、その都度日々変化していく利用者様の状況に応じて、職員同士が情報を共有しながら、またご家族様に相談報告しながら柔軟に対応できるよう考え努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設や利用者様の馴染みの場所をお聞きし、お出かけできるよう対応している。利用者様本人の心身の力が発揮でき、安全で豊かな暮らしができるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族様の希望を第一に考え、往診医もしくはかかりつけ医にて受診できるよう支援している。	月2回、24時間対応のホーム協力医の往診があり、月1回訪問歯科の往診もある。その他の専門科の受診は原則家族対応としている。併設特養に看護職員がいるため、必要に応じて随時相談が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に日々注意し、異変があれば管理者・往診医に上申・報告、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は管理者が医療機関に伺い、担当医師・看護師と情報交換とする等、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化や終末期に向けた方針の説明を行っている。また定期的ならびに状態に応じて話し合いのうえ、重度化した場合や終末期についての対応に取り組んでいる。	自立生活が困難になる段階、おおよそ要介護3になった時点で併設特養への申し込みを家族に依頼している。その方針は入居時に説明している。併設特養への移行が大半を占め、関係者は情報共有しやすく適切な棲み替えができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故等の研修を行い、またその対応の仕方をマニュアル化することでいつでも確認できるようにしている。また今後は定期的に急変・事故等の研修を行うことで、実際に起こった時に落ち着いて行動できるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。夜間想定での避難訓練に参加できていない職員もいるため、不安に感じている職員もいる。地域の方には何かあった場合は協力していただけるようお声かけさせていただいてる。	年2回の複合施設全体での防災訓練の他、ホーム単独での避難訓練も行っている。夜間災害等、日頃不安に感じていることをテーマに据え行っている。停電時に足元を照らす人数分の首掛け懐中電灯を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者様の人格を尊重し、敬う気持ちで声掛け、対応に努めている。	研修を通じて敬いの気持ちを持ち、羞恥心に配慮するよう指導している。ホームで接遇目標を設定し、一年を通じて達成できるよう言葉遣いに配慮し、職員都合とならぬよう、利用者本位の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が自己決定できるような声掛けを心掛けて対応している。一方的に職員が決めるのではなく、意向を確認するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活時間で大まかな一日の流れはあるものの、ひとりひとりのペースを大切に考え、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で整えることが難しい方は、職員が整容のお手伝いをさせていただいている。季節に合った服装ができるよう声掛け対応させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は施設厨房で行っているため、調理工程はないが、それ以外の炊飯や汁物をよそったり、食器洗い・片付け等は、利用者様と職員と一緒にしている。	複合施設の共同厨房で調理された食事を提供している。利用者が調理の匂いや音などの感覚が薄れぬよう、主食と汁物はホームで作っている。中庭で採った野菜を調理したり、食事レクで利用したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスを考えてつくられている。食事量・水分量のチェックを行っている。また食事や水分の促し方にも注意し、本人様に寄り添った声掛けをするよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他、昼食後に職員が一对一で、口腔内の磨き残しのチェックの他、舌みがきや口腔内のマッサージを行っている。またそれを習慣づけるよう、口腔カレンダーを使用し、利用者様が楽しんでケアができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄板を使用し、ひとりひとりの排泄パターンの把握に努めている。使用パットの見直しをしながらその方にあったかたちをその都度検討している。	利用者ごとに排泄のリズムを記録し、失敗のないよう声掛けしてトイレでの排泄を促している。必要に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。羞恥心にも十分な配慮がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄研修を職員が受け、便秘の予防と対応が少しでもできるよう努めている。日頃の運動の中に排便運動を取り入れたり、できるだけ薬に頼らないよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中の時間帯での入浴になるが、その日の気持ちも考慮して、ゆっくり入浴していただけるよう努めている。	毎日湯をたて、週2回の入浴を原則としている。気持ちよく入浴できるよう一人ひとり湯を入れ替え、好みに応じて入浴剤の使用も可能である。入浴が困難な場合を想定し、機械浴を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調に合わせて静養の時間を取り入れている。ひとりひとりの生活習慣の把握に努め、夜間安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の目的が理解できるようファイルにて管理し、服薬介助には最大の注意を払っている。変化があれば往診医へ連絡、記録をするよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの趣味嗜好を理解し、笑いある生活を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	喫茶店や公園など、外出し気分転換ができる環境を提供できるよう支援している。天候にもよるが、施設周りに散歩する時間を午前午後にするなどし対応している。	近隣の散歩や喫茶店外出、季節ごとの企画外出と、様々な外出を支援してきた。外出自粛の現況では、複合施設敷地内での散歩や中庭でのお茶会などを外気に触れる機会としている。春には人がいないタイミングを見計らって、花見を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金の管理が難しいため、事務所で管理している。外へ出る機会がある時の支払いは直接お金を所持していただき、支払いしていただくかたちをとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様個人に送られてきた絵葉書などはしっかり本人様にお届けし、居室に飾るなどし対応している。携帯電話の持ち込みを許可しており、依頼に応じてご家族様や友人知人様への連絡対応にも努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはみなさんで作った作品を飾り、季節感ある作品作りを行うことで、みなさんの空間作りへとつなげている。また畑では季節の野菜や花を植え、季節感や生活感へつなげている。	利用者と一緒に季節ごとに壁飾りを作り、季節を感じてもらうことを重視している。畑での野菜栽培や収穫もその一翼を担っている。利用者と職員と一緒に掃除をし、清潔な空間の維持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設づくり上、大きなスペースはないもののリビングから少し離れたところにソファを置き、少し静かな空間で時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物を持ち込んでいただき、ご家族様に協力いただきながら、安心して生活空間になるよう努めている。	趣味の大正琴がいつでも弾けるようセットされていたり、位牌に毎日水を供えたり、それぞれの思いに沿った居室作りをしている。利用者が自分で作ったカレンダーを飾り、「自分の部屋」との思いを大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの場所の表示を行ったり、安全かつできるだけ自立した生活となるよう生活導線においての設備の位置等には配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000415		
法人名	社会福祉法人志楽園福祉会		
事業所名	グループホーム猿投の楽園		
所在地	愛知県豊田市加納町向井山9-1		
自己評価作成日	令和 2年 8月 1日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqvosvoCd=2393000415-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット①同様身体機能の向上はもちろん、口腔ケアにも力を入れています。自歯の方が多い中虫歯予防のため仕上げ磨きをしたり、入れ歯の方は ゆるみ・破損は無いかのチェックを行い口腔内の清潔保持に心掛けチェックを行って歯科医との連携をはかっている。
畑を作り できる方には耕して頂き皆さんと収穫し調理レクを行っている。また、紙芝居や漢字クイズなどのレクリエーションは毎日行い 認知予防をはかっている。
個々の思いをお聞きできるよう 個別に散歩に出かけ 馴染みの関係を築いて話しやすい環境を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

ハシワタ口.207	4. ほとんどいない
-----------	------------

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット内に掲示し、毎日の朝礼時に唱和し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェ、交流館祭への参加や、近隣への花見等の散歩をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH実施の避難訓練に包括も誘導として参加して下さった。地域との共催の避難訓練も検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、区長、民生児童委員、派出所、病院関係者、包括、家族等が参加して下さり貴重な意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員さんの訪問あり。報告書は職員回覧し内容の共有をしている。また分からないことなどあれば市の担当者に相談等している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束研修を実施し、理解を深めている。また、正面入り口は日中施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が受講。職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が受講職員に周知しているも、現在対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には管理者がご家族様・ご利用者様に説明を行い、理解承諾を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会の実施している。家族様は随時職員や管理者が対応し反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議時等に意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長面接以外にも、年2回管理者面接を行っている。資格取得に向けての支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分の理解を深めたい事があれば調べまともて講師を務めて内部研修を行っている。また、法人にてWEB研修をできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所同士の交流の機会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活の場へ管理者等が訪問し意向等の確認をしている。入居後の困りごと等は傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談、入居後以降もご本人様ごご家族様の要望・相談などして頂けるように信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談で要望等お聞きし、ご本人様が必要としているサービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さまそれぞれの出来る家事のお手伝いをして下さっている。他者様と協力し行うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の状況、入居者の思いも理解し関わりが薄くならないように努めている。新型コロナウイルスの影響で直接面会が実施できない中、web面会や、窓越しに顔をみてお互いに安心して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症カフェ・交流館祭への参加で馴染みに方との交流が出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態や気持ちを考慮し、お一人ずつと関わっている。トラブルになりそうな時は職員が間にたち対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後他施設への転居であれば関りはあまりないが、併設特養への転居であった場合は変わらない関わりを続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の気持ちを聞いたときは、管理者やCMIに伝えている。意思表示が難しい方は、表情などからくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント情報を共有している。今までの生活歴等を大切にし趣味等も続けていけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様それぞれの様子を観察し、記録等に残り職員全員共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様には直接お聞きし、ご家族様へは電話等で要望等をお聞きし、職員会議にて困りごとを話しあい 介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケア記録や日報等に記録し、会議に 議案を出し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、職員・家族様と相談し対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある施設や入居者様の馴染みの場所に気分転換でドライブでも出来るようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外のかかりつけ医にはご家族の協力のもと行って頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調見守り、緊急時には往診Drへ上申し、指示を仰いでいる。また突発の看護的処置には併設の特養看護職員の協力して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者等が病院へ面会に伺い、病院担当者、家族に情報を得て職員にも共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期や重度化に向けた方針の説明を実施している。入居者様の状態に合わせて、情報提供を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お一人ずつの緊急時マニュアル作成。緊急時に対応できるよう、消防署での救急法の受講も少しずつ進めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となって、年2回の避難訓練を実施。またGHとしても単独で夜間想定避難訓練を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い尊重し声掛け等の対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話や、入居者様同士の会話内容から、希望要望を読み取り、職員の思いだけで介護。介助しないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のなかである程度スケジュールが決まってはいるが、入居者様のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で難しい方には職員がお手伝いさせて頂いている。男性には髭剃りの声掛けし、剃り残し等あれば介助させて頂いている。ご自分で服装等調節出来る方も季節に合った服装の声掛けは行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット内でご飯を炊き、食事の時間がわかるようにしている。苦手なもの除去やお膳から皿をよけご本人様がおいしく食べて頂けるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量摂取の少ない方へは、高カロリー栄養剤を摂取して頂くなどしている。水分量の少ない方へは声掛けし一口ずつでも取って頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと昼食後の口腔チェックを実施している。内頬のマッサージや舌の汚れチェック等毎日実施し、習慣になってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者さまそれぞれの排泄間隔に合わせ声掛けを行い、記録している。また、パット等の使用サイズの状態に応じ随時検討変更している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を実施しているが、便秘気味の方へは、処方された薬の使用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決まっているが、その日の状態や気持ちによって変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や生活習慣、ウトウトされていたり等にあわせ、居室にてお昼寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の日付・名前・用法の確認を行い、誤薬の無いように努めている。薬変更があった場合は往診記録や申し送り等に記載し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活習慣や、趣味に合わせて居室やリビングで練習されたり、他入居者様に聞いて頂いたりし継続やる気につなげている。また、散歩は季節を感じたりし気分転換にもなるので皆さんに声掛けし希望者で実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内での散歩に関しては天気との相談ではあるが実施している。入居者様の馴染みの場所へドライブ出来ないか検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を管理する事は難しいので、事務所で全員分管理させて頂いている。外出時には、出来る方は支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様よりのお手紙は、ご本人様にお渡ししている。また居室の見えるところに貼らせて頂いている。ご本人様の状況によっては、電話にてお話をして安心して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんで壁面飾り作りを行い季節感を味わっていただいている。また、今年度より畑を作り、ジャガイモ等植え、水やり、雑草抜き等一緒に行い収穫し調理レクを行った。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、皆さんの状況に応じ席替えを行っている。また場合によってはテーブルの配置換えも行い皆さんが気持ち良くすごして頂けるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・クローゼットは施設のものであるが、家具や服など使い慣れたものを持ち込んでいただき、安心してすごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にお名前の掲示、トイレの案内等し、ご自分で移動できるようにしている。		